２０２２・９・４　　黄金井尚美　主任牧師

＜奥まった部屋での祈り＞

マタイ６：６

祈りの生活、どのように送っているか・・・？
一日のスタート。朝、父なる神に向かって声を上げる！

イエス様は「祈りなさい」とわたしたちに祈ることを求められた。
イエス様を信じる前‥‥‥「祈り」はなくても問題ナシ
イエス様を信じてからは‥‥‥「祈り」は欠かせない　　ナゼ？？

・祈りは神と私の関係が回復したからこそ生まれる会話。双方向の交流。
ここで私たちの内に新しく生まれた「神のいのち」が養われる。

【詩篇１３９：１～４】
主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。 あなたこそは私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます。ことばが私の舌にのぼる前に、なんと主よ、あなたはそれをことごとく知っておられます。

神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。
私のうちに傷のついた道があるか、ないかを見て、私をとこしえの道に導いてください。
【２３、２４節】

自分も知らない「私」を完全に知り尽くされた神がおられる。

祈るときには自分の奥まった部屋に入りなさい。
そして、<u>戸をしめて</u>、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。

「奥まった部屋」　当時の納屋・物置。
納屋は、窓もなく明かりのない暗い部屋。
まわりの人の目を気にしなくていい。
自分の目も気にしなくていい。その目を父なる神に向ける。
神に向かう扉を開けば、そこはどこでも奥まった部屋になる。

＜ブラザーローレンス祈り＞

修道院生活の中で沢山の食器を洗っている。ガチャガチャ食器のあたる音がする場にあっても、わたしの内なる霊は静まって主を仰いでいる。皿洗いをしながらも内なる霊は、神と交わっている。

忙しく働いている時であっても、静かに主の前にひざまずいて祈っている時と全く変わらずに同じである。

書籍：敬虔な生涯　改訂版　～ふだんの生活の中におられる神～

＜祈り＞

天のお父様、私はあなたと親密な交わりを求めています。世に向かう心の扉を閉めて、神に向かう扉を開けば、そこはどこでも奥まった部屋になります。そこでいつもあなたに祈れますように、私の祈りを導いて下さい。私たちの祈りの生活は、日々の忙しさによって埋没してしまう事が多いです。しかし、隠れた所におられるあなたに祈る習慣を身につけて、日々生じてくるあらゆることを、神との関わり中に置くことが出来ますように、あなたの御声を聴かせて下さい。あなたのみことばを与えて下さい。そして、救いを受けて、私たちの内に新しく生まれた「神のいのち」が枯渇することなく、豊かに養われますようにお支えください。 イエスキリストの御名を通して祈ります。アーメン。